学校番号	306

令和８年度　芸術科（書道）

教科	書道	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	書道１（書１704）　（教育出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。１時間の中での進歩、単元をとおしての進歩、学期をとおしての進歩、そして、１年間の学習をとおしての進歩が感じられるような学習への取り組みをして下さい。
・一人ひとりの個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。練習する古典や題材とする語句などについて、自分を最高に生かせる選択をしてください。
・「書道Ⅰ」の学習をとおして、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってください。

２　学習の到達目標

書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。
書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおして心豊かな生活や社会を創造していく態度を育む。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 【知識】 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。 【技能】	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	**一　漢字の書の学習** 一　楷書の学習	書の美を求めて 書の世界へようこそ 用具・用材―文房四宝― 姿勢・執筆 古典の学び方 書を生活の中に生かしてみよう **一　漢字の書の学習** 書体の変遷 拓本と碑について 拓本を採ってみよう 一　楷書の学習 1　さまざまな楷書 2　唐の四大家 ■九成宮醴泉銘／孔子廟堂碑 ■雁塔聖教序／顔氏家廟碑	a: 書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握している。 用具・用材について理解し、姿勢や執筆法・用筆法について知り、書道の学習における基本的な事項を理解している。 小・中学校の国語科書写の学習内容を確認し、身のまわりの生活の中で見られる書について、その意義や効果について理解している。 漢字の書の学習を進めるにあたり、書体の変遷や拓本についての理解をしている。 b: さまざまな楷書古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直感的に捉え、作品の価値や根拠について考えようとしている。 c: 身のまわりに見られるさまざまな書にふれることをとおして、楷書や行書以外の書体についても目を向けられるようにしている。	作品ファイル ・ワークシート ・「学習記録」による学習過程	・提出作品 ・活動の様子 ・「学習記録」による学習過程 ・作品ファイル ・ワークシート	・活動の様子 ・提出作品 ・作品ファイル ・ワークシート

	二　行書の学習	3　北魏の書 ■牛橛造像記／鄭羲下碑 二　行書の学習 1　さまざまな行書 ■行書の特徴 2　王羲之と顔真卿の行書 ■蘭亭序 唐の太宗と蘭亭序 ■祭姪稿 鑑賞ガイド　蘭亭序 鑑賞ガイド　祭姪稿 顔真卿の人と書 3　日本の行書 ■風信帖 ■三筆、三跡の書 身のまわりに見られるさまざまな書	a：書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握している。 用具・用材について理解し、姿勢や執筆法・用筆法について知り、書道の学習における基本的な事項を理解している。 小・中学校の国語科書写の学習内容を確認し、身のまわりの生活の中で見られる書について、その意義や効果について理解している。 漢字の書の学習を進めるにあたり、書体の変遷や拓本についての理解をしている。 b：さまざまな古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直感的に捉え、作品の価値や根拠について考えようとしている。 c：身のまわりに見られるさまざまな書にふれることをとおして、楷書や行書以外の書体についても目を向けられるようにしている。	同上	同上	同上

二学期	三篆書の学習 四篆刻・刻字の学習 五隷書の学習 六　草書の学習	三　篆書の学習 ■泰山刻石 四　篆刻・刻字の学習 1　篆刻の学習 2　刻字の学習 五　隷書の学習 ■曹全碑 ■居延漢簡 六　草書の学習 ■書譜 漢字の書の制作 作品の形式や用具・用材を工夫して表現してみよう 書の鑑賞形式 漢字の書の鑑賞 身のまわりの書	a：篆書の学習は篆刻と関連づけて幅広く学習を深めることができている。隷書については文字の点画構造が楷書に近く、双方の書体への理解が深めている。草書は「仮名の書」の学習での理解を深めている。これらの五つの書体を扱うことで、総合的に書についての理解を深めている。 b：漢字の書の制作における意図に基づく構想と表現の工夫について学ぼうとしている。 c：書の鑑賞形式、さまざまな漢字の書の鑑賞、身の回りの書について理解を深めている。また、生活や社会における漢字の書の広がりにふれ主体的に学習に取り組もうとしている。	同上	同上	同上

	仮名の書の学習	**仮名の書の学習** 1　仮名二の世界へようこそ ■仮名の成立と発達 ■仮名の種類 ■姿勢・執筆 ■用具・用材 ■基本的な筆使い ■平仮名 ■変体仮名 ■連綿 2　蓬莱切の鑑賞と臨書 3　高野切第三種の鑑賞と臨書 4　三色紙の鑑賞と散らし書き 5　仮名の書の制作 6　全体構成の工夫 7　大字による表現と鑑賞 料紙の美 料紙を作ってみよう	a：我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気を味わい、その成立過程や仮名の種類、字源について理解している。 仮名の書特有の用具・用材と基本的な筆使いができている。 平仮名の単体、変体仮名、連綿の筆使いに慣れ、基本的な用筆法ができている。 b：上代様の仮名の鑑賞をとおして、そのよさや美しさを感じ取り、書風を直感的に捉え、作品の価値やその根拠について考えようとしている。また、臨書活動をとおして、筆使いに慣れ、基礎的な表現の技能を身につけている。 c：仮名の書の制作（散らし書き）をとおして、意図に基づく構想と表現の工夫について学習し歴史学習からも主体的取り組もうとしている。	同上	同上	同上

三学期	三　漢字仮名交じりの書の学習	**三　漢字仮名交じりの書の学習** 1　言葉を表現する 2　感動や思いを表現しよう ■作品の表現意図を考える ■名筆に学ぶ表現の工夫 ■用具・用材の工夫 ■全体構成の工夫 ■作品の完成（鑑賞会を行う） 3　漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞 漢字仮名交じり文の成立とその書の変遷	a: これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書を理解して制作できている。 自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定している。 b: 意図に基づいて構想し、用具・用材、全体の構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考えて表現している。表現の工夫にあたっては、名筆や現代の書の表現を参考として表現を深めている。 c:他者との意見交換をとおして、表現を練り上げ作品を完成させようとしている。	同上	同上	同上

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度